

■富本憲吉 陶芸家。大正期・戦前期と段階を踏んで陶芸を深化、〈敗戦〉後に独自の作風を完成し、人間国宝に。

とみもとけんきち
帝国大学始・1886＝

奈良県生駒郡安堵村で富本豊吉の長男に生まれる。

家は代々の地主で、父は漢詩、書、南画に親しむ。

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

日清戦争始・1894＝ 8歳：

日清戦争終・1895＝ 9歳：

八幡製鉄始・1897＝11歳：父が死去して家督を継ぐ。

日露戦争始・1904＝18歳：東京美術学校図案科入学。

日露戦争終・1905＝19歳：2年より建築と室内装飾を専攻。建築を主任教授大沢三之助らに学ぶ。在学中にマンドリン同好会に入る。仲間に藤田嗣治、南薫造、森田亀之助らがいた。

韓国反日暴動1907＝21歳：第1回東京勲業博覧会の美術部門でステンドグラス図案が入選。

アヲキ`創刊・1908＝22歳：卒業制作を5ヶ月はやく提出し、_ロンドンに私費留学。

伊藤博文暗殺1909＝23歳：東京美術学校卒業。ステンドグラスを学ぶ。滞英中の大沢教授の助言もありビクトリア&アルバート美術館での所蔵品写生に励む。工学博士新家孝正の助手としてインド旅行に同伴(翌春ロンドンに戻る)。

韓国併合・・1910＝24歳：_帰国。東京でバーナード・リーチと知り合う。
_以後、{白樺}の同人などと交流を深め、木版画、織物、プリント、木彫など多方面の制作をおこなう。

明治天皇没・1912＝26歳：大正政変・・1913＝27歳：安堵村の自宅に楽焼の窯を築く。

第一次大戦始1914＝28歳：尾竹紅吉と恋愛し結婚。
21ヶ条要求・1915＝29歳：*自宅近くに本焼の窯を築く。最初の「富本憲吉模様集」(自刻版画による)発刊。
_作陶の道に入るとともに、創意にみちた版画や図案集も盛んに発表。

ロシア革命・1917＝31歳：安堵村の工房をリーチと柳宗悦が訪れる。

本格政党内閣1918＝32歳：～大正年代の奈良時代(陶器・白磁)～

原敬首相暗殺1921＝35歳：

水平社結成・1922＝36歳：

関東大震災・1923＝37歳：

円本時代始・1926＝40歳：*安堵村に柳宗悦、河井寛次郎、浜田庄司が来訪。連名で日本民芸美術館設立趣意書を発表。

金融恐慌・・1927＝41歳：東京の祖師谷に家を建築して、移住。国画創作協会の会員となり、以降、国画会に出品。工芸部の創設を準備する(翌年開部)。

満州事変・・1931＝45歳：～昭和年代の戦前の東京時代(白磁・色絵磁器)～

国際連盟脱退1933＝47歳：妻紅吉が青年共産同盟にカンパして検挙され、以後関係悪化。

芥川直木賞始1935＝49歳：_帝国美術院会員(のち帝国芸術院と改制)となる。

二二六事件・1936＝50歳：_九谷の北出塔次郎工房に滞在し、色絵磁器を研究する。

日中戦争始・1937＝51歳：

大政翼賛会・1940＝54歳：

日米開戦・・1941＝55歳：

年金+総武装1944＝58歳：東京美術学校教授となり、工芸図案を担当。同校に置かれた工芸技術講習所主事を兼任する。

敗戦・・・・1945＝59歳：

新憲法公布・1946＝60歳：*東京美術学校教授を辞任。帝国芸術院会員を辞任。国画会を退会。单身郷里の安堵村へ帰る。作陶は京都の知友の工房でおこなう。金銀彩による独自の作風を築く。

新憲法施行・1947＝61歳：_新匠美術工芸会を結成。

三大事件・・1949＝63歳：京都市立美術専門学校客員教授に就任。

朝鮮戦争始・1950＝64歳：京都市立美術大学が新設され教授となる。

独立回復・・1951＝65歳：

～戦後から死去までの京都時代(陶器・色絵磁器・色絵金銀彩磁器)～

55年体制始・1955＝69歳：_重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。作陶45年記念展を東京高島屋で開催。

インスタントメン・1958＝72歳：

安保闘争・・1960＝74歳：

タイタイ病始・1961＝75歳：_作陶五十年記念展を東京高島屋で開催。文化勲章を受章。「色絵金彩羊歯文大飾壺」,

TV宇宙中継始1963＝77歳：*学長となるが、没した。

中ノ堂一信「近代日本の陶芸家」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,